

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2023年 6月 29日

大分市長 足立 信也 殿

提出者

住 所 大分市大字一の洲1番地1

氏 名 ENEOS株式会社

大分製油所長 佐藤 学

電話番号 097-523-2201

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	ENEOS株式会社 大分製油所
事業場の所在地	大分市 大字 一の洲 1番地1
計画期間	2023年 4月1日～2024年 3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	石油精製
②事業の規模	石油製品生産量(2022年度) ・揮発油: 131 万kl ・ナフサ: 54 万kl ・灯油: 95 万kl ・軽油: 127 万kl ・A重油: 67 万kl ・重油 86 万kl
③従業員数	397 名(派遣社員含む)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙-1 参照

(日本工業規格 A列4番)



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙-2 参照

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度(2022年度)実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
別紙-3 参照			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
別紙-3 参照			

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・廃油 ・汚泥 ・ばい塵 ・廃アルカリ ・廃酸 ・廃プラ ・燃えガラ・木くず ・がれき ・金属くず ・ガラス陶磁器くず ・その他
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 産業廃棄物の分別処理はできているが、汚泥や廃プラは種類が多いので分別の強化に取組む

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度(2022年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃アルカリ
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	4,800 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 所内で処理を実施し、排出量の低減		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃油	廃アルカリ
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	5,000 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 所内で処理をして排出量低減に努める		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度(年度)実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度(年度)実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度(2022年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙-4 参照	
	全 処 理 委 託 量		
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(これまでに実施した取組)			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量		t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

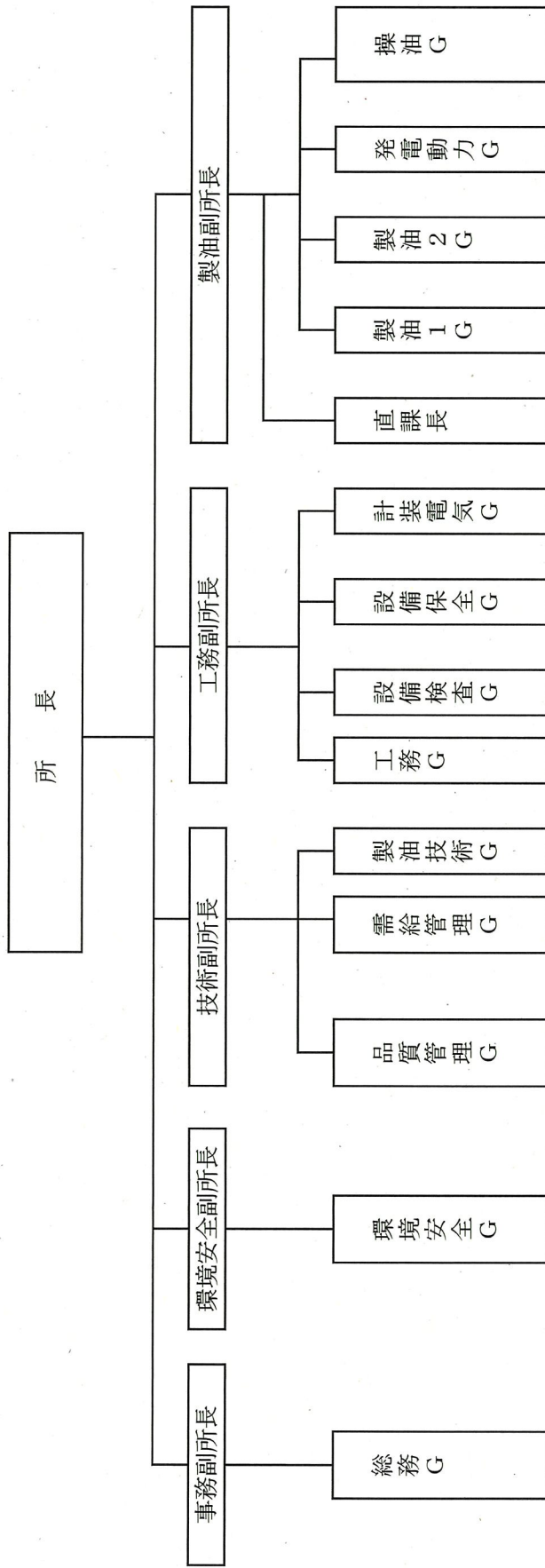
- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙-1 「産業廃棄物の一連の処理の工程」 (2022年度実績)

廃棄物の種類	発生源	廃棄物の種類	性状	排出量 (t/年)	中間処理		最終処分
					分離・分選	中間処理	
特管	電気設備取替え	POB	固形	0.0		光和精製機	セメント原料、路盤材、金属回収
ばいじん	IEG	EP灰	粉状	892.7	焼成	・UBE三菱セメント ・太平洋セメント ・麻生セメント	セメントの燃料として再利用
廃油	精製工程	廃油	液状	4799.5	—	(再蒸留)	含油排水処理施設にて回収し再蒸留する。
廃油	設備点検・補修工事	廃油	液状	112.3	焼却	リマテック	混合処理して燃料として再利用
汚泥	工業用水除濁設備	有機性汚泥(除濁汚泥)	泥状	311.4	脱水	太平洋セメント	セメントの増量材として再利用
汚泥	排水処理設備	有機性汚泥(排乾汚泥)	泥状	321.4	脱水	UBE三菱セメント アマタサキキョー	セメントの増量材、製鋼用副原料
汚泥	精製装置	無機汚泥(FCO廃触媒)	粉状	1002.3	焼成	・太平洋セメント ・アマタサキキョー	セメントの増量材として再利用
汚泥	精製装置	無機汚泥(煙道灰、炉内灰)	粉状	7.4	脱水	アサヒブリテック	セメントの増量材として再利用
汚泥	精製装置	無機汚泥(燐白土)	泥状	304.8	焼成	太平洋セメント 陸産環境	セメントの増量材として再利用
汚泥	設備点検	無機汚泥(燐砂)	砂状	99.1	脱水	陸産環境	路盤材として再利用
汚泥	風乾床	有機性汚泥(風乾床)	泥状	107.5	乾燥	ダイセキ、リマテック	製鋼用副原料
汚泥	タンク開放点検	有機性汚泥(タンクスラッジ)	泥状	8.0	焼却・湿練	リマテック	セメント原料
汚泥	設備点検	有機性汚泥(IPP汚泥)	泥状	404.4	乾燥	HOKO、ダイセキ、リマテック	製鋼用副原料、セメント原料
汚泥	精製装置点検	有機性汚泥(SDMXスラッジ)	粒状	0.0	乾燥	HOKO、リマテック	製鋼用副原料、セメント燃料
汚泥	設備点検	有機性汚泥(その他汚泥)	泥状	378.2	脱水	HOKO、リマテック、アマタ、ダイセキ	製鋼用副原料、セメント燃料、焼却処理
汚泥	精製装置点検	無機汚泥(アルミナ)	粒状	5.2	焼却	エコシス山陽	セメント原料
汚泥	設備点検	汚泥(脱硝触媒等)	泥状	0.0	焼却	エコシス山陽	焼却処理
汚泥	設備点検	無機汚泥(FCO廃触媒)	粒状	0.0	湿練	アマタ	セメントの増量材として再利用
汚泥	生産設備	活性炭	粒状	11.3	焼却	アサヒブリテック	焼却
汚泥	設備点検	汚泥(脱硝触媒等)	泥状	0.0	脱水、焼却、湿練、溶融	・アマタ	路盤材として再利用、湿練処理
燃え殻	生産設備	廃カーボン・活性炭	粉状	16.8	焼却	エコシス山陽	焼却処理
廃電池	生産設備	廃乾電池	固形	0.0		エスプレス大分	
廃アルカリ	生産設備	廃アルカリ	液状	0.0	—	(所内再利用)	
廃アルカリ	生産設備	廃アルカリ	液状	56.3	中和	エコシステム山陽	焼却処理
廃酸	生産設備	廃酸	液状	33.1	中和	リマテック	湿練処理して再利用
ガラス陶磁器	生産設備	保温材	固形	101.7	破碎	大分エコセンター	燃料として有効利用
ガラス陶磁器	生産設備	保温材(石綿含有)	固形	5.0	溶融	共栄製鋼	路盤材として再利用
ガラス陶磁器	生産設備	セラミック・ルキスター	固形	33.9	破碎	陸産環境	路盤材として再利用
ガラス陶磁器	電気設備取替え工事	廃蛍光管	固形	0.2	破碎	ジェイライイツ	再生蛍光管
木屑	生産設備	パレット等	固形	21.6	破碎	ゆうび、大分エコセンター	燃料として有効利用
廃プラ	設備点検・補修工事	フィルター等	固形	119.7	分別・焼却	ゆうび、光和精製 ・アサヒブリテック	再原料化
金属くず	設備点検・補修工事	フィルター等	固形	3.9	分別・破碎	ゆうび・アマタ	再資源化
がれき	設備点検・補修工事	がれき	固形	0.0	破碎、焼却	・大分エコセンター	路盤材として再利用
繊維くず	設備点検・補修工事	フィルター等	固形	0.0	分別・破碎	ゆうび	再資源化
小計(廃油回収再処理分除く)				4358.2			
総計				9158			

別紙-2 「産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項」

管理体制図



別紙-3 「産業廃棄物の排出の抑制に関する事項」

【前年度（2022年度）実績】													
廃棄物の種類	廃油	汚泥	ばい塵	燃え殻	廃アルカリ	廃酸	廃プラ	木屑	がれき	金属くず	ガラス・陶磁器くず	その他	合計
排出量	4,912	2,961	893	17	56	33	120	22	0	4	141	0	9,158
① 現状 (これまでに実施した取組)	・廃油の再利用を増加して廃油の産廃処理量を削減した。												
【目標】													
廃棄物の種類	廃油	汚泥	ばい塵	燃え殻	廃アルカリ	廃酸	廃プラ	木屑	がれき	金属くず	ガラス・陶磁器くず	その他	合計
排出量	4,500	2,500	800	10	30	20	100	30	0	3	120	0	8,113
② 計画 (今後実施する予定の取組)	・廃油の所内処理量を増加して委託処理量を削減する。												

別紙-4 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」

【前年度(2022年度)実績】

廃棄物の種類	廃油	汚泥	ばい塵	燃え殻	廃アルカリ	廃酸	廃プラ	木屑	がれき	金属くず	ガラス・陶磁器くず	その他	合計
全処理委託量	112	2,961	893	17	56	33	120	22	0	4	140.9	0.0	4,358
優良認定処理業者への処理委託量	112	2,961	292	17	56	33	120	22	0	4	135.9	0.0	3,753
再生利用業者への処理委託量	0	0	601	0	0	0	0	0	0	0	5.0	0.0	606
認定熱回収業者への処理委託量													
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量													

① 現状

(これまでに実施した取組)

- ・最終処分量の削減・・・最終処分率 0.5%以下
- ・電子マニフェスト化 100%

【目標】

廃棄物の種類	廃油	汚泥	ばい塵	燃え殻	廃アルカリ	廃酸	廃プラ	木屑	がれき	金属くず	ガラス・陶磁器くず	その他	合計
全処理委託量	100	2,500	800	10	30	20	100	30	0	3	120	0	3,713
優良認定処理業者への処理委託量	100	2,500	300	10	30	20	100	30	0	3	100	0	3,193
再生利用業者への処理委託量	0	0	500	0	0	0	0	0	0	0	20	0	520
認定熱回収業者への処理委託量													
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量													

② 計画

(今後実施する予定の取組)

- ・最終処分量の削減・・・最終処分率 0.5%以下
- ・電子マニフェスト化 100%の継続